

# 多文化共生のまちづくりにおける 学びのデザイン化拠点の創出

Creating a Platform of Learning Design toward a Multicultural Local Community

**研究代表者** 宋悟(NPO法人IKUNO・多文化ふらっと 事務局長)

ほんまなほ(COデザインセンター 教授)

榎井緑(人間科学研究科附属 未来共創センター 特任教授)

**研究協力者**

[学内] 高橋綾(COデザインセンター 特任講師) 佐伯康考(国際公共政策研究科 特任准教授) 今井貴代子(SSI 特任助教)

[学外] 高谷幸(東京大学大学院人文社会系研究科 准教授) 金和永(NPO法人クロスベイス事務局)

小泉朝未(大阪市立大学都市研究プラザ特別研究員・一般社団法人HAPS) 栗田拓(NPO法人トイボックス代表理事) 郭辰雄(NPO法人 コリアNGOセンター 代表理事)

朴基浩(映像クリエイター)

## 1. プロジェクト概要

大阪市生野区には、在日韓国・朝鮮人の集住地域があり、日本最大の大阪生野コリアタウンがあります。近年はベトナムなど「ニューカマー」と呼ばれる人びとも急増しており、区民の5人に1人が外国籍住民、その比率は全国の都市部で最も高く(21%)、66か国の国・地域の人びとが暮らしています。経済的に困難を抱える家庭が多く、就学援助率は全国の2倍以上です。外国にルーツのある子どもなど多様な文化的背景を持つ家族の教育・生活面の安定化に向けたしくみづくりが早急に求められています。

こうした課題——多文化共生をまちづくりの軸にすえた総合的・多面的支援拠点の構築——に取り組むために、2019年6月、生野区において、市民主導のプラットフォーム「IKUNO・多文化ふらっと」が発足しました(以下、ふらっと)。SDGs「誰一人取り残さない」をミッションに掲げ、NPOや市民、行政、企業、大学等、多様なアクターが協働し、多文化共生のまちづくりに向けた「拠点づくり」「多文化イベント」「調査・提言」という3つのプロジェクトが取り組まれています。「拠点づくり」プロジェクトでは、小学校跡地活用計画が策定されたのを受け、市民主体の多文化共生センターを設立しようと準備が進められています。

本プロジェクトは、生野で進められている多文化共生のまちづくりに向けた「拠点づくり」に、地域と大学が連携して取り組んでいこうとするものです。たとえば、学びの協働プロジェクトやプログラム開発、コミュニティづくり、教育コンソーシアムの発足など、学びのデザイン化を進めていきます。

共生とは、つねにすでに、わたしたちによって生きられてきた時間と身体そのものです。生野というさまざまなかたちで共生が育まれてきた歴史と風土こそ、

一人ひとり異なる背景が描かれてゆく地平として学びのキャンパスが真に根を張る土壌となるでしょう。合理化や競争のなかでひとびとが分断される時代において、本来あるべき教育のすがたを、未来ではなくいまを生きる子どもたちとともに、この地でとりもどす。そのために、わたしたちにのしかかる力をほどこき、〈ちがいを意識化することで縫(よ)りあわされる〈つながり〉の糸でわたしたちの知を編み直すための、さまざまなジャンルを横断する対話と創造活動を繰り広げます。

## 2. 2021年の取組と成果

2021年度は、①子どもの学びの場プロジェクト、②市民と大学の協働による教育プロジェクトの2本柱に整理し、それぞれ調査・研究活動、教育活動を実施しました。プロジェクト全体会議を3回開催し、現状や課題、今後の方向性の確認を行いました。また、ふらっとは、コリアタウンにほど近い場所にある御幸森小学校跡地活用事業の事業者に株式会社RETOWNと共同事業体を組み応募し、採択されました。

### ①子どもの学びの場プロジェクト

(「カラーニング・スペース」(仮称)の開設・運営)に向けて

### ●「コーライズ学習会」の開催

生野の子どもたちや教育について考える学習会をふらっとのメンバーと大学で協働企画・協働実施しました。そこで提起された課題や思いを大事にしながら、必要な場づくりやコミュニティづくりにつなげていきます。

第1回(7月6日開催)「のんくん(ダウン症)の母親になって感じていること、感じてきたこと、「障害」をめぐる社会との関係」下飯屋裕子さん(大阪聖和保育園元保護者)

第2回(10月14日開催)「在日を生きて～これからの

## 〈つながり〉の糸で わたしたちの知を編み直す



写真1：第2回コーライブ学習会のチラシと当日の様子



写真2：ヘッドドレス・ワークショップの様子

て、地域資源や課題の共有・発見などを行いました（COデザインセンター授業科目「マイノリティ・ワークショップ」「マイノリティ・セミナー」「総合術COデザインプロジェクト



写真3：「いくのコーライブズパーク」の全体ビジョン  
(イラスト：化生真依 [大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学専攻])

生野区に期待すること〜」金恵心さん(愛信保育園園長)

### ●生野・日本語指導が必要な子ども白書プロジェクト

生野区では、少子高齢化、小学校統廃合、貧困家庭や多文化家庭の抱える課題などが山積しています。特にニューカマーの子どもの高校進学ハードルは依然として高く、入った後のサポートが十分でないという実態が見受けられます。日本語指導という枠組みに矮小化されない、教育、福祉、就労、コミュニティなど一連する課題との接合、及び包括的支援を構想・提言していくことを目的に、NPO法人クロスベースの協力のもと、子ども・保護者へのインタビュー調査、関係機関への聞き取り調査を実施しました。今後、分析や提言をまとめた冊子を作成し、セミナーやシンポジウムを開催する予定です。

### ②市民と大学の協働による教育プロジェクト

(講座「いくのふらっとだいがく」(仮称)の開設・運営)

### ●「社会のための大学」を目指す教育・表現活動

大学生と地域との接点を生み出す教育活動としては、昨年度に引き続き、大学授業へのゲスト講義、コリアタウン・フィールドワーク、生野まち歩きなどを通じ

ト)、人間科学研究科授業科目「コンフリクトと共生の諸課題」)。今後、御幸森小学校跡地を活用したコミュニティアーカイブや、生野を舞台にした表現・アート活動へと発展させていき、それらを「ふらっとだいがく」という仕組みに落とし込んでいくことを検討しています。

- ・インタビュープロジェクト：教育活動やコミュニティアーカイブを目的に、生野在住のウェン・ティ・チョ・トゥンさん(タイ出身、日本の学校に子どもを通わせる保護者)、洪佑恭さん(ほん・うごん、元民族講師)、洪性翊さん(ほん・そんいく、徳山物産元代表取締役)に協力いただき、インタビューを行いました(2021年1~2月実施)。
- ・ヘッドドレス・ワークショップ：アーティスト・ドラッグクイーンのヴィヴィアン佐藤さんを講師に招き、こどもを中心とした生野に暮らす人たちとの表現ワークショップを実施しました(2021年2月5日)。

### 3. プロジェクトの今後

コロナ禍にあっても、感染拡大防止対策に努めながら「顔の見える関係」を大事に、メンバーそれぞれができることを地道に取り組んできました。その一つの成果として、御幸森小学校跡地活用の事業者選定は大きな喜びであると同時に、過去と未来に対する希望と責任だと感じています。2022年度から、施設名を「いくのコーライブズパーク」と名付け、御幸森小学校の跡地で具体的な場づくりがスタートします。これまで本プロジェクトで取り組んできたことを有機的に紡いでいき、「学び」をさまざまな観点からとらえ直し、ことばにし、表現していきます。広報や発信にも力を入れ、学内外や地域で賛同者を増やしていきたいと思っています。